



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



# 選ばれた者として鹿兒島の司祭に叙階

## 鄭法鐘さんと宋診旭さんが教区初の韓国人司祭に

三月二十日(水)鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂であった叙階式で、鹿兒島教区初の韓国人司祭アントニオ鄭法鐘(チョン・ポプ・チョン)神父とドミニコ宋診旭(ソン・ジン・ウク)神父が誕生した。

叙階式会場となった鹿兒島カテドラルには、年齢制限から一度は司祭職への道を断たれた二人の晴れ姿を見ようと各地から三百人余の信徒が参列したほか、二人の母国韓国からも八十人を超える巡礼団が駆けつけ共に喜びを分かち合った。

二〇〇九年に教区神学生として受け入れた韓国人三人の中から待望の司祭が誕生した。叙階されたのはアントニオ鄭法鐘(四十二歳)さんとドミニコ宋診旭(四十一歳)さんの二人。年齢制限のある韓国では司祭になることがかなわず、日本にその道求めて、鹿兒島と縁をつないだ二人だった。

二〇一〇年にインチョンカトリック大学に入学した二人は、翌年二月、ザビエル教会で祭壇奉仕者に

選任、そして二〇一二年一月、韓国での司祭・助祭叙階式で助祭に上げられていた。

午後二時三十分から始められた二人の司祭叙階式には、韓国からの司祭十人を含み四十六人の司祭が集まり、郡山司教と一緒に歓喜のミサを司式した。福音朗読後に説教した郡山司教は、インターネットを介して「司祭になりたい」と訴え、その夢を実現させた二人の受階者を「神がお選びになった」と力強く宣



叙階されたドミニコ宋診旭神父(左)とアントニオ鄭法鐘(右)

大震災から二年が経過した。周りが少しずつ復興して行く中、私たち長崎教区管区が支援を集中している岩手県大槌町の復興はまだまだである。福岡市の大名町教会で開催される復興支援担当者会議も三月一日で計八回を数えた。カトリックのことを「カリタスさん」と呼ぶ被災者たちは「カリタスさん、あなたたちはここを離れないでね」と言う」と聞く。そんな言葉を大切にしながら大槌ベールを中心として支援を続けている

### まだまだ遠い再生への道

#### 長崎教区管区東日本大震災復興支援担当者会議

言、またその上で「韓国の教会とは比較にならない小さな鹿兒島教区を選んでくれてありがとう」と感謝の意を表した。その後、緊張した面持ちで叙階の儀に臨んだ二人は大勢の信者が見守った連願後の司教の挨拶よって、待ちこがれた司祭の聖位に上

げられ、その後は司祭の隣で感謝の祭儀の進行に加わった。ミサ中「主の祈り」が日本語と韓国語で二回歌われると、聖堂内の雰囲気が一変、大勢の信者たちが国境を越えて実現した叙階式の感動に浸っていた。聖体拝領後は祝賀式が行われ、司教と中野裕明神父、そして信徒を代表してザビエル教会の野田健太郎さんが挨拶し「二人の司祭になったから大切にして鹿兒島のために働いて欲しい」とメッセージを送った。

これを受けて挨拶した二人は人生が終わるまで鹿兒島のために働きたいと答え、会場からの大きな拍手に包まれた。

同時に震災に遭われた方々のために主の恵みを祈り続けなければならない。(復興支援鹿兒島教区担当 寝占敦之)



### 教皇フランシスコ誕生

#### 教会に清貧の必要性を強調

教皇職辞任を表明した教皇ベネディクト十六世の後任を決めるコンクラーベが三月十二日から行われ、三月十三日午後(日本時間三月十四日午前)の五回目の投票で、二百六十六代教皇にホルヘ・マリオ・ベルゴリオ枢機卿が選出され、フランシスコを名乗ることになった。

新教皇はアルゼンチン人である。アルゼンチン生まれで、七十六歳。一九五八年にイエズス会に入会し、一九六九年に司祭に叙階。その後イエズス会のアルゼンチン管区長やサンミゲルのビジャ・バリラリ神学院で修練院長を務めるなどしてきた。一九九二年にはブエノスアイレス教区補佐司教に任命、一九九八年から同教区の司教として着座、二〇〇一年に枢機卿に親任されていた。教皇に欧州出身者以外が就くのは実に千三百年ぶりのことで、初のアルゼンチン人教皇であり、貧しい人のために清貧を強調している。

#### ハンマ神父が金祝

レデンプトール会のJ・ハンマ神父(入来教会主任・七十八歳)が、四月二十八日(日)で司祭叙階五十周年の金祝を迎える。



ハンマ神父はフリデインゲン市(ドイツ)に父・ルドルフさんと母・ユステイナさんの長男として生まれた。十四歳で小神学校に入學し、二十九歳で司祭に叙階され、その年の十一月(一九六三年)来日している。以来、谷山や徳之島、北薩で司牧・宣教に従事したほか、レデンプトール会鹿兒島準管区長も務めている。

### 教区人事

- ▼ドミニコ宋診旭神父(新司祭)は、鴨池教会助任司祭
- ▼アントニオ鄭法鐘(新司祭)は、ザビエル教会助任司祭

### 司祭の消息

- ▼柳本繁春神父(コンベンツアル会・古田町教会主任司祭)は、長崎・本河内教会主任司祭
- ▼松永正男神父(コンベンツアル会・大笠利教会主任司祭)

#### 小隈神父は銀祝



鹿屋教会の小隈憲士神父が司祭叙階二十五周年を迎えた。小隈神父は一九五一年生まれの六十一歳。鹿屋市吾平町の出身で、大学卒業後、社会人になってから受洗し、福岡聖スルピウス大神学院へ進んでいる。司祭に叙階されたのは三十六歳になった一九八八年三月二十一日。以後、ザビエル教会助任司祭を皮切りに、教区本部付き、紫原、始良、名瀬聖心の教会で主任司祭として働き、二〇一一年四月から鹿屋教会に着任している。

#### フランシスコ神学生着衣

パク・チョン・キュ・フランシスコ神学生は、三月一日にインチョンカトリックでの着衣式に臨んだ。

- 任司祭)は、古田町教会主任司祭
- ▼久保芳一神父(コンベンツアル会・古田町教会助任司祭)は、大笠利教会主任司祭
- ▼浜田盛茂神父(コンベンツアル会・東京亀有教会)は、奄美修道院
- ▼西山達也神父(コンベンツアル会・兵庫仁川教会)は、奄美修道院
- ※いずれも四月一日付け
- ▼山口好信神父(カルメル会・鴨池教会協力司祭)は、手続きが終了し、二月一日付けで、鹿兒島教区に入籍



# すべてのことに感謝したい

## 司祭叙階六十年（ダイヤモンド祝）を迎えて

### 教区司祭 田原 章

本日は、私の司祭叙階六十周年にあたり、多くの方々のご参列のもと司教主司式、同僚司祭共同司式による記念ミサを催して頂きました。

一介の不肖司祭である私にとりましては、まことに身に余る光栄であり、感謝感激の極みでございます。美しい光を放つダイヤモンドは高価で、私にまで到底生涯をかけても手にすることのできないものだと思っておりますが、司祭を生活を送り続けておりましたら、このような形でダイヤモンド祝を頂くことになりました。

このようにして今日があらた。私は中学校二年生の新学期に司祭を志して小神学生の仲間入りをし、卒業はしたものの、当時は戦後の混乱期で進学は不可能な状況でした。そこで長崎の仮大神学校で学んでおりましたところ、一九四七年になりました福岡に聖スルピス大が入学いたしました。しか



復活したイエス様に出会ったマグダラのマリアは、弟子たちのところに行つて「わたしは主を見ました」と伝えました（ヨハネ20・18）。みなさんはこの箇所を讀んでどのようなイメージを受けるでしょうか。確かに、「この言葉に次いで彼女は「主から言われたこと（弟子たちに）伝えた」と聖書に記されていることから、上品に淡々と話したかのよう印象を持つかもしれない（同上）。しかし、この「見ました」と訳された「ユレカ」とい

りますのは、みんなの父なる神、神の子イエス、そして聖霊の賜物であり、愛の導き、すなわち神の摂理によるものであることは申すまでもありません。そして同時に、皆さま方のお祈りとお力添えによることも私は確信しております。心からありがとうございますと申し上げます。

ここでこのような機会は二度と巡って来ないと思っておりますので、不肖私の司祭としての成り立ちについて簡単に紹介したいと思います。私は中学校二年生の新学期に司祭を志して小神学生の仲間入りをし、卒業はしたものの、当時は戦後の混乱期で進学は不可能な状況でした。そこで長崎の仮大神学校で学んでおりましたところ、一九四七年になりました福岡に聖スルピス大が入学いたしました。しか

う原語を考えると、そのときの彼女の様子が生き生きと浮かび上がってきます。さて、この言葉を考える前に有名なアルキメデスがある物理法則を発見したとき、その瞬間、彼はある物理原理のヒントを発見したと言われています。このとき湯船を飛び出したアルキメデスは「ユレカ、ユレカ」と叫びながら裸で走り回っ

もう少し感謝したいことをお話ししますと今は亡き古老・富山氏が鹿兒島については無知だった長崎出身の私に鹿兒島の教会の状況や一般の風俗、習慣などについて細かく教えて下さり、そのことが鹿兒島で働くための基礎知識となりました。ありがたいことでした。

また鴨池教会の建設は、信徒と共に同じ心で苦勞と喜びを共にできたことが最大のよい思い出となっております。どうもありがとうございます。

## 司教と行くフランス巡礼の旅を企画 「信仰年を充実させたい」と瀬留教会

奄美大島の瀬留教会（栃尾泰英神父）では、今年秋に瀬留教会の創立者・ブイジュ神父の故郷を訪ねるフランス巡礼を企画し、現在、参加者（募集人員三十人）を募集している。

旅行期間は九月十九日（木）から九月二十五日（水）までの七日間で、ブイジュ神父の故郷を巡りミ

たとの言い伝えが遺されています。つまり、この言葉は、ひたすら求めていたもの・信じていたものを艱難を乗り越えてついに見出した、という表現でもあるのです。

|    |  |    |   |
|----|--|----|---|
| 俳句 | 鹿兒島市 徳永ノブ子<br>長閑さに過ごせる日々や主に感謝                  | 文芸 | 出永市 沖 弘子<br>殉教の島澄み晴れて鶴帰る  |
|    | ガビエル教会 上野千穂子<br>集いきて祈る聖堂春陽さす<br>からし種オリブ無花果聖書の樹 |    | 鹿兒島純心 川上 和<br>コンクラーベ白煙のぼる待つ祈り   |
|    | 純心学園 山頭 信子<br>ハンブル語ひと文字読めず叙階式<br>午後晴れて二人司祭の叙階式 |    | 短歌<br>鹿兒島市 前田 儀子<br>あたたかき憩ひのおもひ起しくるフオー<br>レの「夢のあと」のチェロ<br>センターの試験近づく夜の更けに孫が弾<br>きふる月光の曲 |
|    | 霧島市 政 ノブ子<br>一本の水仙開き四旬節<br>豆の花祈り集めて綻びぬ         |    | 鹿兒島純心 川上 和<br>信仰のスタートライン繰り返す太い足跡<br>見つめ直して  |

## 来訪者に癒しのプレゼント 鹿屋小教区星塚教会

鹿屋小教区（小隈憲士神父主任司祭）の巡回教会の一つ星塚教会は、ハンセン病療養所「星塚敬愛園」に隣接している。二十数人ほどの小さな共同体だが、苦しみを乗り越えてきた歴史が礎となつて、どこにも真似のできない深い祈りと温かさを帯びている教会だ。

三月二十一日（木）そんな小さな教会でのミサに、平日の午後という時間にもかかわらず三十人ほどの信

この教会でのミサは、聖歌や祈りが順調に、滞りなくということはまずない。色々と滞る。でもそれを心地よく感じさせる不思議な空間である。銀祝のミサのために盛装して駆けつけた星塚の信者たち。高齢と病のために不自由でありながらもミサのために鐘を鳴らし、聖歌の伴奏を流していく。ミスがあっても誰も咎めもしないし、また誇りもしない。ただ静かな時間が流れ続けるだけ。

この日、駆けつけてきた各地からの信者たちは心を癒されて家路についた。





# 教区の基礎固めに尽力して六十年

## 田原章神父がダイヤモンド祝

三月十七日に司祭叙階六十周年(ダイヤモンド祝)を迎えた鹿兒島教区



郡山司教の横でミサを進める田原神父(中央)

の基礎固めの功労者の一人、ドミニコ田原章神父が三月十日(日)にザビエル教会で感謝のミサをささげた。

一九二七年一月三日、田原要次郎さんとチヨさんの長男として長崎県五島列島の玉之浦町に生まれた神父は、病氣のため同級生たちに遅れること二年の一九五三年三月十七日に浄水通教会(福岡教区)で司祭の聖位に上げられた。また神父が叙階されてわずか一年後には、神父の両親

### 信仰を見つめ直おそう!

#### 奄美での信仰養成講座に毎回二百人余

奄美大島地区宣教・司牧を考える会主催「カトリック信仰養成講座―信仰を見つめ直おそう―」が、名瀬カトリックセンターで二回開催された。第一回は二月十八日(月)から二十三日(土)、第二回は三月四日(月)から九日(土)までの集中講座だった。

この講座の準備には「奄美大島地区の信徒が共に学び、共に信仰の喜びを生き、福音宣教の担い手として共に成長する共同体を築く」という展望を持ち、司祭、修道者、信徒で構成される奄美大島地区宣教・司牧を考える会の宣教推進委員会が携わってきた。

講座の講師は紫原教会主任司祭で、鹿兒島純心女子大学の教授でもある竹山昭神父。テキストには神学博士でもある竹山神父が編集にかかわった「カトリックの信仰」(鹿兒島教区司祭評議会編 改訂第六刷)が使われ、講座も多くの信者に受講してもらいたいとの願いから、昼と夜の二回、同じ内容で行われた。



ことばであり、みことばを味わい実践し、喜びとするには道具が必要。その道具が神学である―と受講者にメッセージを送った。

講座には毎回二百人近い受講者があり、緊張した雰囲気の中にも学ぶことの喜びが伝わり会場にも笑顔が溢れていた。竹山神父が神学を軸に丁寧に分かりやすく解き明かすことばに受講者たちはキリスト者として生きる信仰を見つめ直しているようだった。

講座を終えた信者たちからは「神様への信頼を新たにしたい」「難しい関係にある家族をゆるして受け入れたい」「再確認した信仰の喜びを皆に伝えたい」など、喜びの声が上がるとともに、講座開講の意義が確認できた。すでに第三回への期待も高まっており、受講者たち

### 自然の中で祈ろう 修道生活体験プログラム

応募条件：心身ともに健康で、高校卒業程度以上の学力と常識、良識を備えた方で、共同生活を営むことができるカトリックの洗礼を受けた独身の20歳から35歳までの女性の方。  
体験場所：伊万里の聖母修道院(佐賀県伊万里市二里町大里甲1-41)  
申込締切：4月20日(土)  
期間：5月1日(水)～7月31日(水)(3か月間のプログラムを4回続けて参加すると、1年間の典礼を通して修道体験が可能です。)  
申込方法：ホームページのニュースから申し込み用フォームに必要事項を入力ください。  
<http://www.imari-trappistines.org/> (スマートフォン対応)  
問合せ：Deogratias@imari-tra

にミサをささげた。ミサの終わりにには祝賀式が執り行われ、各教会や幼稚園関係者たちから花束や記念品が手渡され、田原神父の厳つい顔も満面の笑みで崩れた。またその席では

新司祭としての最初の任地・聖心教会に赴いた際、主任司祭が田原神父だったという郡山司教が当時のエピソードを紹介し「いつも神父から温かく支えられてきた」と感謝の言葉を述べた。また司祭団を代表して挨拶した竹山昭神父(紫原教会)が、道なき道を進んで教区の基礎を固めてくれた田原神父に「もう何もなくても、そこにいてくれるだけで司祭たちの励みになる」とこれまでの苦勞に感謝の言葉を述べると信徒を代表して挨拶した木原常義さんも「ますますお元気で」と神父を励ました。

▼世界祈祷日  
三月一日(金) ザビエル教会では日本キリスト教協議会女性委員会の呼びかけによる祈祷会が開かれ、「私が旅人だった時、あなたはあたたかく迎えてくれた」をテーマに女性を中心にカトリックとプロテスタントの兄弟たち九十人ほどが平和のために祈りをささげた。  
▼フィリピン人ファミリィが四旬節の黙想  
四旬節中には各地で黙想会が開催されたが、三月二日(土) 教区本部では鹿兒島に在住するフィリピン人たち十人余がサントス神父の指導のもと、復活祭の準備のために心を整える作業に取り組みむとときを過ごした。

### 司教執務室だより

#### 鹿兒島きぼうの電話

「被災者に寄り添いながらの復興を」大臣と知事さんたちの討論会で耳にした言葉だ。政治がそれだけ、国民の目線に近づいたということなのかもしれない。東北の被災地でのボランティアに求められているのが傾聴だと聞いたのは昨年、前半だったと思う。そんな人々の必要にこたえていこうとする姿勢が政治の世界にも反映されているとしたら嬉しい。

そうした半面、賛助会員が激減し、資金難に直面しているという話を聞くと、少し複雑だ。希望の電話は、開設当初から教区からの補助は一切ない。信者たちを中心にした賛助会員の手で二十数年運営されてきているもので、信者のみならずには、社会に開かれた鹿兒島教区」の先頭を行く誇るべき宣教活動であることを再認識していただきたいと思う。



被災地まで行けないが、せめて被災地の産物を買うことで貢献したいという善意の人々が多い。同じように、相談員にはなれないが、せめて賛助会員となつて、この尊い志を持って教会の活動に賛同され、労をいとうことなく深夜まで受話器の前に座ってくださる善意のみならずへの感謝を込めながら、末永く支えていただきたいと思います。運営委員のみならずが小教区訪問を計画しているのでも、一人でも多くのみなさんが賛助会員となつて、電話の向こうの人々に寄り添っていただきたいと思います。主の復活の恵みが溢れる皆さんにもあることを祈りながら。





へえ、日本の教会は  
今こうなんだ・・・  
ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

### カトリック新聞

1部本体価格150円(税・送料別)  
購読料金(前納、税・送料込)  
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社  
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com

一金沢と右近  
高山右近は、秀吉が發布したキリシタン禁教令に従うよりも、信仰に殉ずる生き方を選びました。そのため、大名の地位を剥奪・追放処分を受けることになったわけですが、信仰に殉じようとした右近のいきさつを尊敬し、右近に好意を寄せ、かくまってくれた友人が少なからずいたのです。私たちが同じではないでしょう。キリスト教信仰に生き抜く生き方をしていくなら、必ず、救いの手を差し伸べてくれる友が現れるに違いありません。私もそのことを経験しましたし、みなさんも、ご経験されたと思います。

意してくれたのは、右近を信仰の師と仰いでいた小西行長(種子島流罪のカタリナ永俊尼、神津島流罪のおたあジュリアの父)、及び、加賀金沢城主・前田百万石の祖・前田利家でした。利家は、右近の人格と武将としての器量を評価して、秀吉に事後承諾をさせようとした。この時、秀吉の実弟・大納言豊臣秀長も、秀吉への執り成しに尽力しています。

くゆだね切つて生きる、ということ、これが回心ということではないでしょう。金沢に、右近がかくまわれるようになったのは、天正十六年(一五八八年)です。以後、マニラに追放される慶長十九年(一六一四年)まで二十六年の長きにわたって、金沢前田家の客将として右近はとどまっていたのです。

れて、「だめだ」「そんなこととはありえない」と考えがちな人々も、それは、違くないことを考え、実現させていく人、チャレンジし、パイオニアになつていく人、それが宣教師です。右近は、キリストの教えの中に、仏教の教えにない素晴らしい「ミゼリコルディア(慈愛)」の生き方を発見し、この教えをいまだ知らされていなかった人々に、知らせようとした。みるみるうちにキリシタンの教区は金沢に広まり、千人から千五百人の洗礼者を生み、金沢の教会は右近の家臣キリシタンを加え、二千五百人を数えるようになったのです。この報告は「イ

て至福を与えられるべきことを知り。また、卿は、キリストに倣いて、自ら十字架を担える者は、主のみあとに従うことを熟知しておれり。予(教皇)は、卿が、今までのごとく、将来にもこの確信を定めおかれんことを、期待する」

| 日      | 会と催し (4月)  |
|--------|--|
| 1日(月)  | 中高生の長崎巡礼(3日まで)                                   |
| 2日(火)  | 中野裕明神父叙階記念日(一九七八年)                               |
| 7日(日)  | 復活節第二主日  |
| 8日(月)  | 成相明人神父霊名(聖ラサール)のお告げ                              |
| 9日(火)  | 司祭評議・教区本部・14時                                    |
| 11日(木) | 教区司祭会・教区本部・16時                                   |
| 13日(土) | コンベンツス・教区本部・10時                                  |
| 14日(日) | フリチエル神父叙階記念日(一九五五年)                              |
| 15日(月) | 久保芳一神父叙階記念日(一九七五年)                               |
| 18日(木) | キツペス神父黙想会「イエズスに近づいて」・マリア山荘・14日まで                 |
| 20日(土) | 復活節第三主日  |
| 21日(日) | ホリスティック聖書講座「ヨハネ福音書一章新しくうまれること」・ザビエル教会集会所・10時・五百円 |
| 22日(月) | 松森孝郎神父叙階記念日(一九七一年)                               |
| 23日(火) | 宣教学校・教区本部・13時30分                                 |
| 25日(木) | 復活節第四主日  |
| 28日(日) | 世界召命祈願の日   |
| 29日(月) | アン神父叙階記念日(二〇〇六年)                                 |
| 30日(火) | 奄美地区例会   |
| 1日(水)  | 聖マルコ福音記者   |
| 2日(木)  | マイエル神父命日(一九七八年)                                  |
| 3日(金)  | 復活節第五主日  |
| 4日(土)  | アッシュャー神父叙階記念日(一九六八年)                             |
| 5日(日)  | ハンマ神父叙階記念日(一九六三年)                                |

## キリシタンの歴史⑫ 高山右近(補筆)

溝辺教会主任司祭

坂本 進

人間関係や政策は、一度決められたら、それがずっと続くというものでは決まらず、変化があります。ある時点で、裁かれ罰を受けたとしても、それは変わることもありえます。ゆえに、ある時点で敵・味方になったように見えても、関係が変化していくことがありえるのです。たまたま相手方が敵とみなしていても、こちらが敵とみなさず、白紙の心・新しい心を持って常に臨んで改善されていくようになりえるのです。それが、回心ということではないでしょうか。自分のこだわりを生きたことをやめて、神に自分を譲り渡し、神の時・機会(チャンス)に自分を全

リシタンの教えが広まっていたのでしょうか。私たちが凡人は「一向宗が多いなら、キリスト教など入りこむ余地はない」と考えます。みなさんは靴を未開地の人々にセールスして成功を収めたセールスマンのことをお聞きになったことがあるでしょうか。彼はこう考えたそうです。「普通の人は、未開地の人々は、靴をはいたことがないのだから、誰も靴をはく人なんかいない。売れるわけがない」と考えるでしょう。しかし、私は、誰もはいったことがないからこそ、これからはこうになる、と考えたのです」

エズス会年報」に記されています。そのことを、キリシタン研究者・チスリック神父さまは、述べておられます。「高山右近史話」三一〇頁。

三 教皇さまから右近に宛てた手紙  
教皇シスト五世は、一五八七年に秀吉が出したバレン追放・キリシタン禁教令によって、大名の地位を剥奪され、追放に処せられた高山右近に慰めと励ました手紙を送っています。この手紙は、一五九二年になつて右近の手に入つたようです。その手紙の一部を、紹介いたします。

「卿(右近)は、主のみ言葉のごとく、正義のため迫害を忍べる者が、天国に

### 祈りの意向

【フベナ】中高生巡礼と教会学校のため(1日～9日)  
【祈祷の使徒会】一般・いのちの源である典礼  
宣 教・宣教地の教会  
日本の教会・新年度の志

Katesismo sa Taon ng Pananampalataya (Fr. Dino Oroño)

### +KABAYAN SEKSIYON+

Pangungusap ni Papa Benedicto XVI ukol sa Pananampalataya  
Puno ng ideya si Papa Benedicto XVI sa usapin ukol sa pananampalataya. Ilang mga sipi mula sa mga isinulat niya ang magpapatunay sa kanyang pag-unawa.  
Sa Deus Caritas Est(39), isinulat niya: "Sinabi sa atin ng pananampalataya na ibinigay ng Diyos ang kanyang Anak para sa atin at ibinigay sa atin ang ganap na katiyakan na totoong nga na ang Diyos ay pag-ibig! Binabago nito ang ating kawalang-tiyaga at mga pagdududa tungo sa tiyak na pag-asa sa Diyos na nag-iingat ang daigdig sa kanyang mga palad..."  
Para kay Benedicto XVI sa Spe Salvi(7) "Ang pananampalataya ay hindi lamang pag-abot sa mga bagay na darating palamang at ganap na wala rito: mayroon itong idinudulot..." Nagiging kabahagi na tayong mga ipinangakong regalo at bagong buhay ng Diyos!  
Sa isang homilya sa pagtatapos ng Taon ng mga Pari(Hunyo 11,2010) tinawag ng Papa si Maria na "dakilang babae ng pananampalataya at pag-ibig na sa bawat henerasyon ay naging bukal ng pananampalataya, pag-ibig at buhay." Umalingawag kay Benedicto XVI ang mga salita ni Elisabet kay Maria: "At mapalad ang babaeing sumasampalataya: sapagkat matutupad ang mga bagay na sa kanya'y sinabi ng Panginoon"(Lk 1:45).  
Habang tayong mga buhay pa dito sa ibabaw ng mundo tayong ay ginagabayan ng Inang Simbahan tungkol sa mga bagay na hindi natin nakikita subalit ating pinaniniwalaan at sinasampalatayaan na may Diyos na kumikilos sa ating buhay. Hindi natin nakikita pero ating nararamdaman at nararanasan ang kanyang presensiya sa pamamagitan ng mga bagay na nilikha ng Diyos.  
Itinuturo din sa atin ng Inang Simbahan na hindi lang ang Ama ang kumikilos sa buhay natin kundi pati ang kanyang bugtong na Anak si Jesukristong Panginoon. Na siya ang nagpakilala ng dakilang pag-ibig ng Diyos Ama sa atin at yan ay ating nararanasan.  
Sa karanasan natin hindi natin nababatid na ang Banal na Espiritu din ay kumikilos at gumagabay sa atin. Ang Banal na Espiritu ang nagtuturo sa atin na tayong nabubuhay sa dakilang pag-ibig ng Santisima Trinidad, ang Ama, Anak at Espiritu Santo.  
Kaya sa mga pangungusap ni Papa Benedicto XVI ukol sa pananampalataya ay walang kadududa na ang Diyos na hindi natin nakikita pero ating nararamdaman ay talagang buhay na buhay sa ating mga kasaysayan. Ano man ang ating mga estado sa buhay, ang Diyos na mapagmahal ay palaging tayong ginagabayan.